

様式第十八の四（第11条の3第3項関係）

認定事業適応計画の概要の公表

1. 認定の日付

令和4年7月29日

2. 認定事業適応事業者の名称

株式会社イオンファンタジー

3. 認定事業適応計画の内容

（1）事業適応に係る事業の目標

新型コロナウイルス感染症による影響の長期化等、当社を取り巻く環境に新たな変化が表れており成長拡大に向けては対応が急務となっており、当社は「新規事業による新たな市場領域への進出」と「既存主力事業の進化」を図り対処する。

新規事業では、地域共生を目指したテーマ型アウトドア施設事業（グランピング）や、「癒し・遊び」をテーマとした、温浴施設、あそびの専門性を高めた「カプセルトイ専門店」「プライズ専門店」、の開発を実施。既存事業においては、新たな顧客の期待価値に対応した「NEW モーリーファンタジー」による主力業態の進化をはじめ、独自性のある時間制遊具施設の業態開発を進める等、積極的な投資を実行していくことで事業収益力の向上を目指す。

（2）その事業の生産性を相当程度向上させること又はその生産し、若しくは販売する商品若しくは提供する役務に係る新たな需要を相当程度開拓することを示す目標

計画終了年度である2025年2月期のROAが、基準年度である2022年2月期の5%ポイント以上となることを目標とする。

（3）財務内容の健全性の向上を示す目標

2025年2月期において、有利子負債はキャッシュフローの10倍以内、かつ経常収支率を100%以上とする。

（4）事業適応の類型

成長発展事業適応

（5）計画の対象となる事業（日本標準産業分類における中分類名称及びその分類コード）

その他のサービス業 95

（選定理由）

当社は、こどもたちの夢中を育み、“えがお”あふれる世界をつくる。をパーパスとして制定しており、当社の最上位概念と位置付けている。

国内531店舗、海外428店舗、計959店舗(2022年5月末時点)の運営を通じて培ってきた、

子供とそのファミリーをターゲットとした事業展開の強みとノウハウを生かし、体験価値の提供企業として更なる発展をしていくとともに、地域と社会に貢献していくため。

(6) 事業適応の具体的内容

当社を取巻く環境は、新型コロナウイルス感染症の長期化、国内人口減少によるマーケット縮小、IT技術の利用拡大、等の様々な環境変化が表れており、成長拡大に向けてはこれらの対応が急務となっている。

当社は経営課題として、「市場の変化に合わせた自らの変革」を掲げ、従来の社是を昇華させた「パーパス」を制定、更にサステナビリティ経営のガイドラインとなる、サステナビリティ方針を制定し、持続可能な社会への貢献と、子どもとその家族をターゲットに、体験価値提供企業として、下記に掲げる新たな成長領域を設定し、事業毎に新規投資を実施。収益拡大を図り、2025年2月期における全体売上高の1%以上になる事を目指す。

A) 新たな事業領域への進出による価値提供と事業創出

1) 地域共生事業（アウトドア）

コロナ以降の拡大するアウトドアニーズを捉え、当社の新たな成長領域の拡大及び、出店地域の集客や雇用等の活性化に寄与する地域共生を目的とした事業で、実験店舗を2023年度より開始する。アウトドアにおける家族の自然体験価値をテーマとした滞在型施設であり、既存施設をリノベーションし、宿泊機能、飲食機能、自然を活用したアクティビティで構成。当社の遊具開発ノウハウを活用し、あそび、まなびを体験できる。

2) 温浴事業

コロナ環境下で発生した、生活ストレスの増加や「家」に代わる新たな家族のコミュニケーション空間の創出を目指し、「癒し・遊び」をテーマとした、温浴施設のモデルを2022年度に出店する。従来の高齢者向け温浴事業施設と異なり、「癒しのサードプレイズ」としての価値に基づく、滞在機能（飲食・読書・リラクゼーション等）を重視し、又当社のノウハウである遊具やイベント等の「コト」機能を提供する。

3) カプセルトイ・プライズ専門店事業

コロナ下における商業施設の空床増加、遊びの変化（安い、近い、短い時間での遊び）を捉え、一定の遊びに特化した、小規模ローコスト、多店舗化モデルを開発・推進する。

カプセルトイ専門店においては、当社独自のカプセルトイマシンの設置（LEDによる画面表示による情報提供サービスの拡充、完全キャッシュレス化による人的作業効率改善、支払い手段の多機能化を実現する。更に、従来廃棄していた、使用済みカプセルを回収、再利用し顧客にサービスの還元を図る等、環境面にも配慮した仕組みを組み込む。

プライズ専門店については、拡大するキャラクター市場を捉え、クレーンゲームに特化することで現在出店できていない小規模な面積のフロアやショッピングセンター以外においても出店を進め新たな顧客層への価値の提供を行う。

4) GMS(商業施設)複合業態モデル

当社の直営施設と都市近郊型商業施設における「コト消費」に焦点を当てたテナント集積により、新たな集客の核をショッピングフロア内に展開する事業。当社のターゲットである子どもとその家族を中心とした、関連性のあるコト機能を誘致し（例：学童機能・病院機能等）来店目的性や販売機会の強化を図り、パブリック機能の有料化等の収益性拡大や、フロアの統一デザイン等による独自のテーマ性の訴求、又、テナント間の共通ポイントシステム化を図る。

B)既存マーケットを活用し、新たな体験価値創出による事業拡大

1) NEWモーリーファンタジー

環境変化に対する企業姿勢の高まり（サステナブル性）、子どものストレス拡大、遊び方の変化、IT 機器の進化を考慮し、主力既存業態である「モーリーファンタジー」を全面刷新した新モデルを開発・拡大させ、アミューズメント施設の新たな遊びの体験提供価値創出と、競争独自性を獲得する。特徴としては、新遊具の開発（多層階ボールプール）、設置、情報提供機能の進化（大型 LED サイネージボード設置）、人的サービスの拡充（おもちゃアドバイザー配置）、ライブイベントの拡充、顧客サービス支援システム（顧客の問い合わせ時における顧客位置の把握と即時対応）の導入、廃材利用の店舗内装がある。

- ・ 産業競争力強化法第 21 条の 28 第 1 項の規定に基づく経済社会情勢の著しい変化に対応して行うものとして主務大臣が定める基準への適合：有

(7) 事業適応の開始時期及び終了時期

開始時期：令和 4 年（2022 年）7 月 29 日

終了時期：令和 7 年（2025 年）2 月 28 日